

## 競技別実施要項 【軟式野球】

### 1 期間及び会場 5月16日(土)～6月7日(日)

日にち	球場名	第1試合 9:00	第2試合 10:30	第3試合 12:00	第4試合 13:30
5/16(土)	境川遊水地公園少年球場 A	各チームの運動会を考慮して 2日間で1回戦7試合を行う			
	境川遊水地公園少年球場 B				
5/17(日)	境川遊水地公園少年球場 A				
5/24(日)	相模三川公園 A	8	9	10	11
5/31(日)	通信隊オール泉グラウンド	12	13		
6/6(土)	境川遊水地公園少年球場 (予備)				
6/7(日)	相模原ひばり球場	14	閉会式		

2 参加資格 所属市町スポーツ少年団本部長から推薦のこと。対象者は以下のとおりとする。

- (1) 単位団：**令和7年度日本スポーツ少年団に登録している団で、登録完了団。**
- (2) 団員：令和8年度にスポーツ少年団登録をしており、令和8年(2026年)4月2日以降に生まれた者のうち、国、公、私立の小学校または各種学校に在学している団員。
- (3) 指導者：令和8年度にスポーツ少年団指導者として登録している者で、スポーツ少年団の理念を学んだ者（「スポーツ少年団登録規程施行細則」第2条第4項参照）

[https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/2024/tourokukitei\\_sekousaisoku\\_20240301.pdf](https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/2024/tourokukitei_sekousaisoku_20240301.pdf)

(4) 役員スタッフ：令和8年度スポーツ少年団登録完了者

(5) **高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会神奈川県予選会に参加申込みをしている単位団とその構成員の出場は認めない。(要注意)**

(6) 令和8年度スポーツ安全保険（同等の補償のある傷害保険を含む）に加入済みであること。

(7) 下記大会の全日程に参加できるチームであること。

○関東ブロック大会：令和8年7月11(土)～12日(日)

＜山梨県：南アルプス ジット スタジアム、ふじでん球場（緑が丘スポーツ公園野球場）＞

○エンジョイ！軟式野球フェスティバル2026

**令和8年8月8日(土)～11日(火) \*ブロック予選にて上位2チーム**

＜岩手県：（二戸市営大平球場、八幡平市総合運動公園野球場、軽米町ハートフルスポーツランド野球場、一戸町総合運動公園野球場、二戸市民文化会館）＞

参加料 5,000円(出場チームは別途徴収)

受益者負担 宿泊、輸送など(名鉄観光幹旋あり又は団体にて手配)

### 3 チーム編成

別に示す「第51回神奈川県スポーツ少年団エンジョイ！スポーツフェスティバル競技方法及び競技規則等」を適用する。

### 4 参加料 1チーム 13,200円(消費税込み)

### 5 参加チーム数 各市町本部長から推薦された代表1チーム

横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、平塚市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、座間市、寒川町(15チーム)

### 6 申込締め切り及び代表者会議

出場チームの代表指導者は必ず出席すること。

(1) 申込み期限 締切日 令和8年4月30日(木)

※ 代表チームが決まっていない場合は、大会出場の有無を連絡し、代表者会議に本部代表として、必ず1名は参加させること。

- (2) 代表者会議 日 時 令和8年5月9日(土) 18時00分から  
会 場 県立スポーツ会館 2階会議室  
住所：横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1

## 7 表 彰

優勝チームには、優勝旗(持ち回り)、賞品(トロフィー)、賞状を授与し表彰する。  
準優勝・第3位のチームには賞品(トロフィー)・賞状を授与し表彰する。

## 8 関東ブロック大会

優秀なチームに山梨県で開催する関東ブロック大会(全国予選)の申込みをする。  
ブロック予選通過チームは、令和8年8月8日(土)～11日(火)岩手県で行われる  
エンジョイ！軟式野球フェスティバル2026へ参加する。

## 9 競技ルール

「公認野球規則」及び「公益財団法人全日本軟式野球連盟競技者必携/学童部に関する事項」による。  
但し、別に示す「第51回エンジョイ！軟式野球フェスティバル競技方法及び競技規則等」はこれを  
適用する。

## 10 試合球

公益財団法人全日本軟式野球連盟公認 ケンコーボールJ号

## 11 補 則

- (1)打順表は大会運営本部が用意するのでチームが球場到着の報告の時に受け取り記入後、速やかに提出  
すること。
- (2)メンバーの変更は代表者会議の席上まで認める。その後の変更は認めない。
- (3)団員のスポーツ傷害、健康管理に十分注意すること。

## 12 そ の 他

- (1)本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、競技委員協議の上、競技委員長の権限により処  
理する。
- (2)代表者会議で決められた事項は、団員は勿論のこと、応援の父兄その他の関係者に必ず徹底させるこ  
と。
- (3)この大会に出場できるチームは「日本スポーツ少年団登録規程」により令和8年度登録者(指導者・  
役員・スタッフ及び団員登録を完了し、同時にスポーツ安全保険(同等の補償のある傷害保険を含む)  
に加入している者であること。

## 13 個人情報の取り扱いについて

別紙申込書に記載された個人情報は、大会プログラムの記載の他に、本大会の目的達成のために使  
用します。

## 第51回エンジョイ！軟式野球フェスティバル 競技方法及び競技規則等

(令和8)第51回エンジョイ！軟式野球フェスティバルは、「公認野球規則」および「公益財団法人全日本軟式野球連盟競技者必携／学童部に関する事項」、「エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2025 運営に関する規定」、競技に関する特別規則を準用し、詳細については下記の通りとする。

### 1. 規則細則

#### (1) チーム編成及びベンチに入れる人員について(チーム編成と競技者の背番号は以下に統一する。)

登録されユニホーム着用の監督 30 番、コーチ 29 番、28 番および選手 25 名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)各 1 名とする。

また、熱中症対策として保護者 2 名までベンチに入ることができる。(ビブスを着用する)

引率責任者(代表者) 1 名 私服(運動のできる服装)とし、登録者とする。

指導者(監督) 1 名 背番号 30 番とする。スポーツ少年団の理念を学んだ者に限る。

指導者(コーチ) 2 名以内 背番号 28・29 番とする。スポーツ少年団の理念を学んだ者に限る。

団員(選手) 25 名以内 背番号 0 番から 99 番までとする。

代表団員(主将)は、背番号 10 番とする。

健康管理スタッフ(熱中症対策スタッフ)

私服(運動の出来る服装)とし、2 名以内のベンチ入りを認める。ビブスを着用すること。

マネージャー、スコアラー、トレーナー(団員以外)

私服(運動の出来る服装)とし、各 1 名のベンチ入りを認める。

トレーナーは理学療法士・柔道整復師など、医学的専門職の資格を有する者とする。

#### (2) 用具、装具等及び禁止事項について

1) 打者、次打者、走者及び走塁指導者(ベースコーチ)は、S・Gマークのついた全日本軟式野球連盟公認で、両側にイヤフラップの付いたヘルメットを着帽すること。

2) 捕手は全日本軟式野球連盟公認のマスク・レガーズ・プロテクター、S・Gマークのついた捕手用ヘルメット及びファウルカップを装着のすること。

3) バットは、全日本軟式野球連盟公認(JSBB マーク入り)の物を使用すること。

但し、打球部に弾性(ウレタン・スポンジ等)を取り付けた一般用バットは使用を禁止する。

4) 素振り用の鉄棒(鉄パイプを含む)、バットリングは使用してはならない。

5) 同一チームの代表指導者(監督)、指導者(コーチ)、団員(選手)は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。

6) 金属スパイクの使用を禁止する。

7) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、右袖(縫付け)に日本スポーツ少年団団員章もしくは指導者章を必ずつけなければならない。

#### (3) 応援団等のマナーについて

1) 球場での道具(大太鼓、トランペット等)を使用しての応援は一切禁止する。

2) 投手が投球動作に入ったら、応援はやめること。

3) 自チーム及び相手チームの団員(選手)・審判員に対する野次・ブーイングは、行わないこと。

4) その他、目に余る応援・試合進行の妨げになる応援・近隣住宅の迷惑となる応援等については大会本部及び審判より厳重注意を行います。

## 2. 競技運営に関する取決め事項

- (1) 第1試合のチームは、開始予定時刻の30分前、第2試合以降は前の試合の2回終了時まで、打順表（登録された者の全員を記入したもの・選手名にふりがな）を大会本部に提出し、参加申込書と照合を受けた後、指導者（監督）と代表団員（主将）が球審の立ち合いのもと攻守を決定する。
- (2) 参加申込書提出後は、選手の追加・変更及び背番号などの変更は、原則認めない。
- (3) 遅れる、人数が揃わない。その他で、試合開始時刻になっても試合のできる状態をとれないチームは原則として棄権とみなす。
- (4) 前の試合が早く終了した場合は、次の試合の開始予定時刻前であっても、その試合を開始する場合がある。（前の試合が終了した後、20分を目安に次の試合を開始する。）
- (5) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも選手と同一のユニフォームを必ず着用する。また、捕手は全日本軟式野球連盟公認のマスク・レガース・プロテクター、S・Gマークのついた捕手用のヘルメット及びファウルカップを装着のすること。補助員としてコーチ（背番号29・28）を認める。ダートサークル内に入る補助員はヘルメットを着用すること。但し、大会運営上、シートノックを行わず試合を開始することがある。
- (6) 次の試合のバッテリーが、球場内のブルペンで攻守決定後使用することができる。また、球場内でのフリーバッティング（ハーフバッティング含む）は認めない。球場内ではトスバッティングのみ認める。
- (7) その日の第1試合に出場チームは、外野に限り練習してもよい。
- (8) ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。ただし、メガホンは1個に限り使用を認める。
- (9) 攻守交代時で最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻る。
- (10) 試合中、代表指導者（監督）はグラウンドに入って指示を与えることができる。
- (11) 試合のスピード化に関する事項
  - ① 試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
  - ② 投手の準備投球数は球審の指示により行うこと。
  - ③ 攻守交代は駆け足で行うこと。また、監督のマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
  - ④ 投手は、必ず投手板について捕手のサインを見ること。
  - ⑤ 次打者は、必ず次打者席へ入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
  - ⑥ 打者は、みだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内でみること。
  - ⑦ 内野手間のボール回しを制限することがある。
  - ⑧ 代打、代走の通告は氏名と共に「代打者」「代走者」の背番号を球審に見せて行うこと。
- (12) その他
  - ① ファウルボールの処理については、両チーム選手が行うこと。

一塁側の者は一塁側ベンチ、三塁側のものは三塁ベンチ、本塁後方のものは、攻撃側で処理すること。ファウルボールを捕りに行く選手はヘルメットを着用すること。
  - ② 小雨の場合、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
  - ③ 雨天の際の連絡等について  
ア. 試合不可能な場合は、ホームページにて確認のこと。  
KBBA 神奈川県学童野球連盟 (<https://kanagawa-boys-baseball.org/>)  
イ. 当日試合を全く行わない場合と、午前中見合わせて午後から行う場合があるので、大会運営本部からの連絡等について注意すること。
  - ④ 対戦するチームの監督・コーチ・スタッフの皆様は、自主的にグラウンド整備を手伝うこと。
  - ⑤ 球場関係者と無用なトラブルを起こさないよう、言動に注意すること。
  - ⑥ ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）、携帯マイクの使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。なお、指示用メガホンはベンチ内に限り1個使用を認める。



### 3 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合は、6回戦とするが、暗黒、降雨などで6回完了まで進まなくとも、5回を終了すれば試合成立とする。なお、5回終了前でも1時間30分経過で成立、新しい回には入らない。ただし、6回を完了して同点の場合と、1時間30分を経過して同点の場合は、直ちにタイブレーク方式で試合を決定する。
- (2) 大会運営上、タイブレーク方式を行わず、抽選（○×式とし、○印の多いチームが勝ち）で勝敗を決定する場合もある。
- (3) 得点差によるコールドゲームを全試合採用する。（3回以降10点差・5回以降7点差とする）
- (4) タイブレーク方式は継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を二塁走者（投手と捕手を除いても良い）とし、無死一、二塁の状態にし、投手の投球制限を遵守のうえ行う。なお、得点の記録は、合計得点とする。
- (5) 指名打者ルールを使用することが出来る。ただし、二刀流選手は採用しない。
- (6) 5回終了以前に降雨、日没等で試合続行が困難となった場合、または5回を過ぎ同点で中止となった場合、翌日以降、特別継続試合を行う。打ち切りになったところから試合を再開する。
- (7) 原則として、ダブルヘッター（同一日2試合）を行わない。ただし、降雨等により大会運営上やむを得ない場合2試合行うことがある。
- (8) 投手の投球数制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1試合かつ1日70球以内とする。なお、試合中に70球（4年生以下は60球以内）に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
- (9) 抗議のできる者は、代表指導者（監督）または、当事者でなければならない。
- (10) 守備側のタイムの制限
  - ① 監督が、1試合に投手のもとに行ける回数は3回以内とします。なお、タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回とします。ただし、投手交代の場合はタイムの回数に含みません。なお、「監督が1イニングに同一投手のもとに2度行った場合、投手は自動的に交代しなければならない」は適用しない。
  - ② 捕手または内野手が、1試合に投手のもとに行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回とします。投手のもとに行くときは、往復を駆け足で行い、プレイの開始を遅らせてはなりません。
- (11) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。
- (12) 守備の時間が長い場合（概ね20分）には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けるものとする（試合時間には入れない）。

### 4. その他

本競技規則及び取決め事項によらない事項が生じた場合の対応については、主催団体間で協議し、決定するものとする。

KBBA 神奈川県学童野球連盟 (<https://kanagawa-boys-baseball.org/>)

# 神奈川県大会開催要項

運営協力：神奈川県学童野球連盟

## 1. 大会適用規則

2026年版公認野球規則及び競技者必携の中の学童部に関する事項を適用する。

## 2. 試合開始、打順表と攻守の決定、ベンチに関する事項

チームは、試合開始予定時刻の60分前までには球場に到着し、大会本部から打順表を受け取る。神奈川県学童野球連盟ホームページから打順表をダウンロードして使用する場合は、本球場での試合では6部、それ以外では4部印刷し、試合当日に持参すること。

第1試合は開始予定時刻の30分前、第2試合以降は前の試合の2回終了時までに、打順表(登録された選手全員を記入したもの・選手名にふりがな)を大会本部に提出し、参加申込書と照合を受けた後、監督と主将が球審の立会いのもとに攻守を決定する。

- 1) 参加申込書提出後は、選手の追加・変更及び背番号などの変更は、原則認めない。
- 2) 遅れる、人数が揃わない、その他で試合開始予定時刻になっても試合のできる状態を取れないチームは、原則として棄権とみなす。
- 3) 前の試合が早く終了した場合には、次の試合の開始予定時刻前であっても、その試合を開始する場合がある。(前の試合が終了した後、20分を目安に次の試合を開始する)
- 4) 小雨の場合でも、球場の使用が可能な場合は試合を行うことがある。  
神奈川県学童野球連盟大会開催案内 <http://kbbainfonew.stars.ne.jp>
- 5) ベンチ内での電子機器(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。なお、指示用メガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。
- 6) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。

## 3. 用具・装具

- 1) バットは全軟連公認のものを使用すること。ただし、打球部に弾性体(ウレタン、スポンジ等)を取り付けた一般用バットは使用を禁止する。
- 2) 打者・次打者・走者・ベースコーチは全軟連公認のイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。
- 3) 捕手は、全軟連公認のマスク・ヘルメット・レガーズ・プロテクターを着用すること。危険防止のためファウルカップを装着すること。(控え捕手も装着、女子は装着を推奨)攻守交代等に伴い捕手が用具着用中に、控えの選手等が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること。(出場中の内野手可)
- 4) 同一チームの選手・監督・コーチは、同色、同形、同意匠のユニフォームを着用のこと。(選抜・連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること)ただし、スパイクを除く。また、金具の付いたスパイクは使用できない。
- 5) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による県名を必ずつけなければならない。また、都道府県に関連するものをつけることができる。
- 6) 監督・コーチ・選手以外はジャージ等長ズボン・スニーカーを着用すること。ユニフォーム・短パン・サンダル等の着用は不可とする。
- 7) サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手はミラーレンズサングラスは使用できない。また、野手がサングラスを帽子の庇に乗せることを認める。

#### 4. 試合進行に関する事項

- 1) シートノックを行う場合は後攻チームより行い、5分間を限度とする。補助員としてコーチ(背番号29・28)を認める。ダートサークル内に入る補助員はヘルメットを着用すること。ただし、大会運営上、シートノックを行わず試合を開始することがある。
- 2) 次試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。
- 3) 申告故意四球は採用する。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合、ボールデッドとし、打者はボール4個を得たときと同じように一塁へ進む。
- 4) 選手の肘・肩の障害防止を考慮し、1試合かつ1日の投球数は70球以内、1週間の投球数を210球以内(4年生以下は60球以内、1週間180球以内)とする。なお、試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投球できる。ボークにかかわらず投球したものは球数に数える。タイブレークとなった場合、1日の投球数以内で投球できる。けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。投球数の管理は大会本部が行う。
- 5) タイブレーク方式は継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者として、無死一・二塁の状態にして、投手の投球制限を遵守のうえ行う。なお、得点の記録は、合計得点とする。
- 6) 指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手は採用しない。

#### 5. 試合のスピード化・マナーに関する事項

- 1) 投手(救援投手を含む)の準備投球は初回に限り5球以内とし、次回からは3球以内とする。
- 2) 攻守交代はかけ足で行い、第三アウトが成立したら、プレーヤーは素早くベンチを離れ、守備位置に向かうこと。特にバッテリーは投球練習があるので、率先して行動すること。
- 3) 各回の先頭打者と次打者及びベースコーチはミーティングに参加せずただちに所定の位置につくこと。
- 4) 内野手間の転送球は一回りとする。(状況によっては中止することもある)  
最後にボールを受けた野手は、定位置から速やかに投手に返球すること。
- 5) 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏み投球姿勢をとること。サインを見るときは必ず投手板に触れて見ること。無用と思われる塁へのけん制が、度を過ぎれば注意を与える。
- 6) 投手は、ロジンバックを指先だけで使用し、丁寧に扱うこと。【大会本部で準備】
- 7) 打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。みだりに打者席を外さないで、サインは打者席内で見ること。
- 8) 次打者は、必ず次打者席へ入り低い姿勢または立った姿勢で待機すること。投手も必ず次打者席に入ること。投手が投球動作に入ったらスイングをやめ投球を注視すること。
- 9) 攻守交代時、最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- 10) 走者は、ファウルボールが打たれた時は、かけ足で元の塁に触れること。
- 11) 捕手または内野手が、1試合に投手のもとへ行ける回数を3回以内とする。タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- 12) 監督が、1試合に投手のもとへ行ける回数を3回以内とする。タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。投手交代の場合は、回数に数えない。
- 13) 攻撃側のタイムは3回以内とし、タイブレーク方式の場合は1イニングに1回とする。
- 14) タイムは、1分以内を限度とする。
- 15) 試合中はみだりにベンチを出ないこと。投手の準備投球にあわせて素振りすることを禁止する。試合中、攻守交代時に、控え選手は、①ファウルグラウンドで外野方向へのランニング、②自チームの練習のベンチ前での見守り(但し、球審の「プレイ」宣告までにはベンチに戻る)、③ベンチ側の外野手とキャッチボール、をすることができる。
- 16) 次のイニングも引き続き投げる投手のベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、コーチボックス外野角側からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールを認める。2組4名以内とする。

## 6. その他の取り決め事項

- 1) ファウルボールは、一塁側のもは一塁側ベンチ、三塁側のもは三塁側ベンチ、本塁後方のもは攻撃側で処理すること。ファウルボールを捕りに行く選手は、ヘルメットを着用すること。
- 2) ノッカーにボールを手渡す選手、または野手からの送球をノッカー付近で捕球する選手及び外野手からの送球を補助する選手（中継者）は、ヘルメットを着用すること。
- 3) その回の先頭打者は、投手の準備投球が終わるまで次打者席で待機していること。次打者席には一人の選手しか入ることができない。
- 4) ベンチから無用と思われるサインは送らないこと。
- 5) 塁上の走者及びコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせることを禁止する。また、打者が投げ終わった球種を次打者他に知らせることを禁止する。
- 6) 投手が投手板に触れ投球位置についたら動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
- 7) いかなる状況であっても、ベンチ内の大人が、選手を委縮させるような言動を禁止する。選手に対する暴力、暴言、不適切な取り扱いを厳に慎むこと。
- 8) 選手や審判員に対する全てのヤジを禁止する。また、スタンドからの応援団のヤジおよび目に余る行為はチームの責任とする。
- 9) 対戦するチームの監督・コーチ・スタッフの皆様は、自主的にグラウンド整備を手伝うこと。

## 7. 熱中症対策に関する大会特別規則

- 1) 給水タイムに関する取り決めは以下の通りとする。給水タイムは試合時間に算入しない。
  - ・イニング間の給水タイムは試合前に球審・両監督の打合せで決める。  
(例：2回、4回終了後)
  - ・守備時間の目安の時間は約20分（状況によっては更に短くすることも可）とする。
  - ・「給水タイムに入ります」のアナウンス（又は球審の号令）で始まり、球審の号令で守備側選手がベンチを出た時に終了する。
- 2) 試合に出ている選手の代走（臨時代走者）が認められる場合、投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の打者とするが、捕手も除いても良い。
- 3) タイブレーク方式は継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とするが、投手と捕手を除いても良い。

## 学童連盟の指針

「3プラス、1ない運動を」

☆3つのない・「あきらめない」・「くじけない」・「なげださない」

☆プラス1・「失敗を失敗に終わらせない」